

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

2006 年度関西支部理事会報告	〒 540-0008
2006 年度関西支部総会・年会報告	大阪市中央区大手前 4 丁目 1-76
第 27 期第 1 回常任理事会報告	大阪合同庁舎第 4 号館
2006 年度関西支部例会・講演会開催のお知らせ	大阪管区気象台内
関西支部第 28 回夏季大学報告	日本気象学会関西支部
2006 年度関西支部調査研究奨励金の授与候補者の 募集結果について	振替 00980-5-18318
2006 年度刊行物の販売について	TEL (06)6949-6323
バックナンバー情報	FAX (06)6944-2121
ホームページ	http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/
E-mail	msj-kns@s2.dion.ne.jp

2006 年度関西支部理事会報告

2006 年度総会に先立ち、理事会が 6 月 17 日（土）11 時 00 分から大阪市中央区天満橋にある大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）の地下 1 階多目的ホールで開催されました。小佐野支部長の挨拶の後、山中・池田・神野各氏の異動等による役員失格・辞退と塩谷・中江・坂本各氏の役員就任が報告された。また、第 27 期の役員選挙は立候補者がそれぞれ役員の定数内のため、全員無投票当選となり、新任者となった渡部、山本（晋）、佐々、岡本各氏の紹介があった。2006 年度支部奨励金受領候補者は今年度も該当者はなかったが、研究グループ助成については岡山理科大学の大橋氏代表者とする「局地風の数値モデリングに関する研究グループ」から申請があり、常任理事会で審議のうえ助成を行うこととした旨、報告された。なお、研究グループ助成については、今後は恵まれない環境で調査研究を推進している個人やグループに対して行う奨励金の制度をより充実して、助成については廃止する方向を検討すべきとの意見が常任理事会で出され、検討している旨が報告された。

総会資料の検討では、2005 年度の事業報告・会計報告・会計監査報告の説明が各担当から行われた。会計監査担当の真中氏から夏期大学の別会計化とテキストや要旨集の在庫数をチェックした上での財産目録化の提案があったが、今後改善に向けての検討を進めることとした。

続いて、2006 年度の事業計画・予算案について、担当理事から説明があった。今年度は秋季大会等の特別な行事はないので、例年通りの事業計画である。夏期大学については、講義中心に進める予定であること、先に説明した奨励金の受領者の推薦は各地区で取り組んでいただきたいとした。

関西支部ニュースの発行については、今年度からすべて発行通知を E メールで各会員に連絡し、WEB 掲示のみで原則郵送は行わないことが確認された。

昨年度からの懸案である「支部会員の種別化」については、2004 年 8 月から既に本部で実施している形をそのまま準用し、今後通常会員のみ選挙権や議決権をもつこととする。このための規約等の改正は不必要との説明がなされた。

なお、支部ニュース発行通知のために整備されたメーリングリストの活用法については第 27 期常任理事会で検討することとなった。

2006 年度関西支部総会・年会報告

<2006 年度気象学会関西支部総会>

2006 年度関西支部総会は、6 月 17 日(土)13 時から大阪府立女性総合センター3 階大会議室で開催されました。参加者と委任状をあわせて 291 名あり、全支部会員数 563 人の過半数を超え総会は成立しました。小佐野支部長の挨拶、補充された理事、幹事等の役員の紹介があり、その後、議長に西憲敬会員(京都大学)を選出して議事に入りました。2005 年度の事業報告・決算、2006 年度の事業計画案・予算案、その他の議案については原案どおり賛成多数で承認されました。

質疑では、夏季大学が昨年は定員 80 名に対して参加者は 63 名で定員割れとなっていることに関して、定員割れを防ぐ対策をとってほしいとの意見があり、各大学への働きかけやポスターを利用して教育委員会等への依頼を計画しているとの回答があった。

また、気象庁の OB 会員から行政改革に伴う公務員削減計画の一環として測候所の全廃が計画されていることに関連して、測候所は観測統計期間が長く、しかも都市化の影響があまりない気候観測に適した地点が多くある。富士山測候所の有効利用が計画されつつあるが、近畿管内の伊吹山、剣山の山岳観測所の跡地がそのままになっている等の事実をふまえ、測候所の存続や山岳観測所跡地の活用について、気象学会としての提言ができないものだろうかという意見があった。また、総会への気象台職員の参加が極端に少ないが何とかならないかとの意見があった。

これに対して小佐野支部長から測候所は廃止されることになってからも特別地域観測所として目視項目以外のデータは観測が継続されること、伊吹山観測所の建物は廃止からかなり年月がたち再利用は困難なことを説明された。さらに同席された廣田本部理事長からはこれらに対する気象学会としてとるべき立場について、全国理事会でも検討されるよう、支部と本部とのパイプを太くされるよう望むとの発言がなされた。

<2006 年度気象学会関西支部年会>

総会では多かった空席が年会では発表に関係を持つ学生らの多くの出席により立ち見が出るほどの盛況となった。昨年と同様発表件数は 12 件と多く、発表時間は質疑を含め 13 分とした。

座長は前半を小西理事、後半を府立大の重氏が担当し、それぞれの発表と質疑が行われた。今回の発表内容はメソ気象から気候、新しい観測手段による気象解析さらに教育分野まで及び昨年同様幅広いものとなった。17 時の終了時間ぎりぎりまで、熱心な発表と質疑が繰り広げられた。

第 27 期第 1 回常任理事会報告

2006 年 7 月 19 日(水)に開催され、以下の議題について報告及び討議を行いました。

第 28 回夏季大学進捗の状況
研究グループの助成
メーリングリストの活用法
支部ニュース第 253 号の発行予定
その他

なお、議事の詳細については関西支部のホームページにある「関西支部常任理事会議事録のページ (http://www.k3.dion.ne.jp/~msj-knsi/meeting/meeting_log.html)」をご覧ください。

2006年度の役員の任務分担は次のとおりです。

[常任理事]

- ・支部長 小佐野慎悟(大阪管区气象台)
- ・研究発表担当 石川裕彦(京都大学) 塩谷雅人(京都大学)
小西啓之(大阪教育大学) 松村 哲(大阪管区气象台)
- ・会計担当 三角幸夫(大阪管区气象台)
- ・研究奨励担当 塩谷雅人(京都大学) 松村 哲(大阪管区气象台)
- ・夏季大学担当 石川裕彦(京都大学) 塩谷雅人(京都大学)
小西啓之(大阪教育大学) 渡部俊夫(大阪管区气象台)
- ・庶務担当 松村 哲(大阪管区气象台) 渡部俊夫(大阪管区气象台)

[地区理事]

- ・近畿地区 中垣 壽(日本気象協会) 内野 修(神戸海洋气象台)
- ・中国地区 山本 晋(岡山大学) 江口一平(広島地方气象台)
- ・四国地区 佐々浩司(高知大学) 大野久雄(高松地方气象台)

[会計監査]

岡本 吉生(日本気象協会)

[幹 事]

山本真之(京都大学) 中江祥浩(大阪管区气象台) 坂本徹重(大阪管区气象台)

2006年度関西支部例会・講演会開催のお知らせ

2006年度関西支部例会・講演会を次の日程で開催します。会員・非会員によらず多数ご参加ください。例会のプログラムは、関西支部のホームページへ掲載するとともに、「天気」の「支部だより」等でお知らせします。

第1回例会(中国地区)

- 開催期日 2006年11月11日(土)10時~17時30分
- 例会会場 岡山大学環境理工学部 104講義室(岡山市津島中3丁目1-1)
キャンパスマップ: http://www.okayama-u.ac.jp/jp/tsushima_j.html
- アクセス 岡山駅東口から岡電バス「妙善寺」行き乗車、岡大東門下車、徒歩5分
岡山駅西口から岡電バス「岡山・岡山理大」行き乗車、岡大西門下車、徒歩10分
- テーマ 設定しない
- 特別講演 講師: 西田顕朗氏(筑波大学農林工学系講師)
題目: 「衛星リモートセンシングは、陸面過程研究に何を与えてくれるのか」(仮題)
- 例会発表申込締切日 2006年9月19日(火)
- 要旨集原稿の締切日 2006年10月16日(月)

第2回例会(四国地区)

- 開催期日 2006年11月17日(金)13時00分~17時30分
- 例会会場 香川大学研究交流棟会議室(香川県高松市幸町1-1)
キャンパスマップ:
http://www.kagawa-u.ac.jp/info/map/campusmap/saiwai_campus.html
- アクセス JR高徳線「昭和町駅」下車、徒歩5分
JR高松駅からコトデンバスで市民病院行き「宮脇町」下車徒歩3分

関西支部第28回夏季大学報告

関西支部第28回夏季大学を、2006年8月3日(木)~4日(金)(いずれも午後)の2日間、大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)において、大阪管区気象台及び日本気象協会の後援で開催しました。

今年は「大規模な流れから局地的な流れまで」をテーマとして、天気を支配する流れについて、地球規模・ローカル域・局地的な見地から多様な気象現象を把握し、時間的・空間的に様々な天気現象を理解していただく内容としました。平日の午後ということもあったようで、昨年より少ない47名の受講者でしたが、学生から80歳代の方まで幅広い年齢層の方々が聴講されました。それぞれの講座ともメモを取るなど熱心な受講となり、講義のあとの質問では予定の時間をオーバーするなど、盛況のうちに終了しました。以下は、各講師の講義の概要です。

1日目(8月3日午後~)

- ・向川均氏(京都大学防災研究所助教授)の「地球をめぐる風とその予測」では、トップバッターということで、それぞれの講師がこれから話される時間・空間スケールの説明があり、偏西風が生じることの解説や回転水槽実験のビデオによる傾圧不安定波のわかりやすい解説があった。続いて、偏西風ジェットとストームトラック、ブロッキングについて説明され、大規模運動の予測可能性など最近の知見についても紹介された。
- ・渡部俊夫氏(大阪管区気象台天気相談所長)の「高気圧や低気圧に伴う風」では、高気圧や低気圧に伴う風の特徴、低気圧に関する概念モデルの変遷について説明された。具体例として、日本付近を通過した2つの低気圧の発達・衰弱について、総観規模の大気現象としての見方や考え方を高層天気図や数値予報資料、ひまわり画像などととも、豊富な経験を交えながら話された。

2日目(8月4日午後~)

- ・大野久雄氏(高松地方気象台台長)の「台風・雷雨・突風などの激しい大気現象と激しさの根源」では、2005年の台風第14号によって、四国の水がめである早明浦ダムが満水0%が一日で満杯100%になったことをGrADSの動画により水蒸気輸送の激しさを説明された。専門分野である雷雨の一生、ガストフロント、ダウンバースト・マイクロバースト、竜巻ではビジュアルな映像を中心に解説された。これらの現象はテレビ等の報道でも見聞きする機会があることから多くの質問が出された。
- ・丸山敬氏(京都大学防災研究所助教授)の「災害を引き起こす風」の講義は、建築学(耐風構造)の立場から、強風による住家の屋根瓦の飛散や窓ガラスの破損による家屋内への影響・軽減の話から始まった。局地的な地形によって引き起こす強風の話では、一昨年の台風第18号の通過時に厳島神社(宮島)が強風害を受けた事例について、詳細な現地調査結果が紹介されたのち、宮島周辺に複雑な風の変化が発生する様子を数値シミュレーションにより調べた結果が示された。

最後に、講義いただいた講師の方々、ポスター作成から受け付けまでご協力をいただいた(財)日本気象協会関西支社の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2006年度関西支部調査研究奨励金の授与候補者の募集結果について

支部ニュース第251号で2006年度関西支部調査研究奨励金候補者を募集していましたが、募集期限の4月21日(金)までに応募や推薦はありませんでした。同奨励金は会員の推薦や応募に基づいて常任理事会で選考し、6万円の奨励金が授与されるもので、関西支部に所属する会員で、調査・研究を精力的に行っている人や学校教育を通じて気象学の知識普及に努力されている人などで、研究環境にあまり恵まれていない人を助成するために設けられています。2004年度、2005年度ともに授与者はありませんでしたので、2006年度内は引き続き受け付けます、積極的な応募や推薦をお願いします。

応募や推薦はA4判用紙に以下の事項を記入のうえ事務局まで送付してください。

1. 受領候補者の氏名、印、生年月日、勤務先及び連絡先(住所と電話番号)

< 年会講演予稿集 > (括弧内は残部)

1996年(31)、1997年(0)、1998年(0)、1999年(3)、2000年(29)、2001年(19)、2002年(28)、2003年(30)、2004年(40)、2005年(30)、2006年(33)

< 例会講演要旨集 > (括弧内は残部)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 73 回四国 (局地気象と中小規模現象)(6) | 74 回近畿 (海洋気象学会と共催)(海洋と気象)(2) |
| 75 回近畿 (大気組成・物質輸送・総観気象)(62) | 76 回四国 (局地気象・中小規模現象)(56) |
| 77 回中国 (中小規模現象)(54) | 78 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(61) |
| 79 回近畿 (中小規模現象)(21) | 80 回四国 (局地気象)(32) |
| 81 回中国 (中小規模現象と局地気象)(30) | 82 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(32) |
| 83 回中国 (15) | 84 回近畿 (地球規模の気候変動と局地気候)(9) |
| 85 回四国 (局地気象・中小規模現象)(19) | 86 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(19) |
| 87 回近畿 (西日本における最近の台風・豪雨)(5) | 88 回中国 (15) |
| 89 回四国 (局地気象・中小規模現象)(19) | 90 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(0) |
| 91 回四国 (27) | 92 回中国 (4) |
| 93 回近畿 (海洋気象学会と共催)(3) | 94 回中国 (35) |
| 95 回四国 (52) | 96 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(12) |
| 97 回中国 (12) | 98 回四国 (32) |
| 99 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(23) | 100 回中国 (35) |
| 101 回四国 (局地気象・中小規模現象)(36) | 102 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(21) |
| 103 回中国 (5) | 104 回四国 (激しいメソスケール現象)(28) |
| 105 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(52) | 106 回四国 (35) |
| 107 回中国 (30) | 108 回近畿 (海洋気象学会と共催、海洋と気象)(60) |

バックナンバー御希望の方は事務局まで、下記様式により、郵便または手渡し、FAXあるいは電子メールでお申し込みください。バックナンバーの郵送を希望された場合、代金(300円、送料別)はバックナンバー送付時に同封する郵便振替用紙にてお支払い下さい。

(バックナンバー用)

日本気象学会関西支部予稿集・要旨集等申込書

- ・氏名または団体名： _____ 代表者(_____)
- ・送付先住所：〒 _____
- ・連絡先電話：TEL(_____) FAX(_____)
- ・連絡先E-mailアドレス： _____
- ・刊行物名と申込部数：
- | | | |
|---------|-------------------|---|
| ・ _____ | 年度年会講演予稿集 | 部 |
| ・ _____ | 例会講演要旨集 第 _____ 号 | 部 |
| ・ _____ | 第 _____ 回夏季大学テキスト | 部 |
- ・受取方法 (郵送 / 事務局手渡し)